

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000440		
法人名	宗教法人 真正寺		
事業所名	グループホーム ハーモニー		
所在地	小樽市長橋2丁目19番28号		
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果市町村受理日	平成25年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成25年4月1日に開設10年目を迎えました。それに伴い「介護の人と人との関わり合い」を初心に戻り見直す為、運営理念と職業倫理の再確認を取り入れている最中です。また、運営推進会議への御家族参加や行事ごとへの御家族の協力も増え、より一層入居者様への支援体制が整いました。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000440-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 10 月 9 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有の為に、施設の年間目標に理念を一つづつ挙げています。また、いつでも理念を確認できるように、ロッカーやユニット内などに掲示していますが、実践されていない時もあり常に実施する必要があると思います。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として、地域の行事の手伝いをさせて頂いたり、地域の方に挨拶を行う様にしています。また、入居者様は地域のお店を利用したり、行事の見学などして交流を行っていますが、もう少し交流が出来る取り組みを行う必要があると思います。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前、町内会の会議にて認知症について説明をさせて頂きましたが、それ以降は町内会行事で個々にお話しを行う程度です。運営推進会議にて繋がりはありますので、機会がありましたら地域の方に向けて活かしていきたいと思っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の方や御家族に向けて報告をさせて頂き、話し合いで出た意見を検討しサービスの向上に活かしています。本年度から開催形式を変更した為、御家族の参加も増えています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所各課や包括支援センター等と、必要時に連絡を取っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない為の内部研修や話し合いを行っています。新人職員にも初めに説明を行っており、身体拘束を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の内部研修や話し合いを行っています。新人職員にも初めに説明を行っており、ちょっとした事でも虐待につながる事がある為に、注意を払い防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修等で学ぶ機会がありますが、現在の職員はあまり学ぶ機会が無く、とても難しい内容の為、今後は学ぶ機会を持ちまして、全員で学び活用できるように支援していきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に契約書類等を十分理解していただける様に話し合いを行っていますが、不安や疑問点があれば納得して頂ける様に説明をさせて頂いています。また、後日に疑問等がありましたら、直ぐに連絡頂ける様にしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しの中で等気軽に意見や要望を聞き出せるように、管理者や職員で取り組んでいます。また、外部者様へ表せる機会として運営推進会議にて報告させて頂いたりし、色々な意見を取り入れて検討を行い反映させています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	直接に意見や提案を聞く機会はなく、代表者と管理者の会議にて、職員の意見や提案を確認した事を報告していますが、直接話し合える機会が少しでも必要だと思います。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働きやすい職場環境に努めていると思っていますが、給料面に関しては少々不満がある職員もいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに年間計画を作り、個々に合った内外の研修を受ける機会が設けられ、計画外のその他の研修に関しましては、職員の希望を確認し研修を受けられるようにしています。また、日々働きながらトレーニングが出来る様になっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者と交流を通じて質の向上に努め、職員は相互訪問や研修会などでネットワーク作りを行い、色々な話を聞きサービスの質を向上させる取り組みを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前の事前情報を確認し、耳を傾けながら個々の状態に応じた対応や声掛け、ボディータッチなどを取り入れています。また、色々な事を記録に残して申し送りを行い、職員同士が情報の共有を行なう事で、安心を確保が出来る様な関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階に気軽に面会に来て頂き、御家族しか分からない困っている事や不安な事、要望を確認しながら可能な限りの支援を行い、面会時等に入居者様の生活の様子をお伝えしています。何かあれば電話にて連絡し、安心して頂ける関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様と御家族のニーズを可能な限り確認し、支援を行いながら、入居者様と御家族との話し合いの中で気が付いた点等を、職員と話し合って支援の方向性を見極めるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の性格等を考え、残存機能等を把握しながら対等の立場と考え、お互いに助け合いながら暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族に色々行事に参加して頂いてまして、入居者様や御家族・職員でコミュニケーションを取りながらの支援しています。また、御家族にしか出来ない支援があるので、分からない事は御家族に協力をして頂き、情報の共有を行い共に支えていく関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、馴染みの人に会ったり電話をしたりする事が必要で、馴染みの場所に関しては昔から行っていましたお店などを利用したりして支援していますが、入居者様によって馴染みの場所の関係が少ない方もおられるので、出来るだけの支援が必要があると思います。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格もありますが、孤立しない様に職員が間に入ったり、レクリエーション等を行い出来るだけ入居者様同士が関わり合える様に支援を努めています。その時によって一人になりたく孤立されている方もおられます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関係を大切にできるよう努めており、施設以外でも会った時には挨拶などを行っています。また、御家族に対し必要に応じて可能な限りフォローさせて頂き、相談や支援に努める様になっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や日常の様子によって出来るだけ把握が出来る様に努めていますが、御家族にも色々と協力して頂いています。困難な場合は、入居者様の気持ちも考え職員や御家族と話し合いを行い検討を行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や記録で確認を行っていますが、殆どの職員が新人の為、長く働いている職員や御家族からお話を聞いています。しかし全て把握は出来ていないので、今後色々な事が把握出来る様に努める必要があると思います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の現状の把握に努めていますが、その時の入居者様の現状を上手く把握できなく、どの様に対応を行って良いのか戸惑う時もありますが、個々の過ごし方・心身状態・有する力を把握する様に努力を行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の日常生活の中で、色々なニーズの確認を行い、御家族と話し合いを行ったりして会議や日常的に意見交換を行っています。新人が多い為、話が不足してしまう時もあり、御家族や計画作成担当者に意見や質問にアドバイスをしてもらい、それぞれの意見を入れてケアプランを作成をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践や結果を記録していますが、気づきや工夫を記入できていない事もあります。上手く文書をまとめる事が出来なく、情報の共有をしっかりと出来ない時もあり、その中で見直しに活かしていますが、今後は記録と実践をしっかりと行える様に必要があります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族が宿泊や食事を行なう事ができ、御家族の希望で外食などの支援も行っています。可能な限り柔軟に対応し、職員同行でご自宅に一時帰宅するなども行っています。事業所で使用できる物等を使用するように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所としては地域の資源を利用し、消防所・交番と連携し安全で豊かな暮らしを支援できるようにしています。入居者様は個々に合った地域のお店や美容室などを利用し、暮らしを楽しめるようにしていますが、頻度が少なく今後は頻度を増やしていく必要があると思います。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前から通院されていたかかりつけ医を大切に、入居者様や御家族が納得された病院と関係を築いています。また、希望された入居者様には、協力医療機関による二週に一度の往診を受けて、適切な医療を受けられるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じてバイタルチェックや排便チェック等を行い、小さな事でも変わった事があれば看護師に相談を行い、適切な受診等の支援が受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療が行える様に、日々の状態を記録にて確認し、病院関係者に介護添書等を渡すようにして情報交換が出来る様にしています。退院等に関しましては、定期的に面会に行き、状態の確認や病院関係者との関係づくりを行っていますが、入退院にあまり関わった事無い職員もいますので積極的な関わりが必要だと思います。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針や支援方法は、御家族やDr.・職員等で話し合い共有し対応を行っていますが、経験があさい職員が多い為、その経験を次回に上手く活かさない時もあります。今後は、支援や共有等を深めて行く必要があると思います。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	春に消防職員による訓練を行いました。新人が多い為、半数がしっかりと時間を取った訓練は受けていません。業務の中で訓練を行いながら、実践力を少しずつ付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、昼夜の避難訓練を行っていますが、訓練の説明だけで訓練は行っていない者もいます。今後は、全職員が訓練を行える様にしていきます。また、地域の協力に関しては、地域の方に依頼はしていますが、現段階では見学して頂く程度です。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の人格やプライド、今までの生活背景を把握したうえで、声掛けや対応を行っていますが、稀に対応を誤ってしまう時がある為、日々安心して頂ける対応を心掛ける必要があると思います。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの中で、思いや希望の確認を行ったり、自己決定が出来る様に選択出来る様な声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースが大切にし、その時の様子を確認しながら出来るだけ希望に沿った支援を心掛けています。職員の都合を優先してしまう時もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは、起床時や居室から出られる時等に髪を整えたりしていますが、おしゃれに関しては自己決定が出来る方には決めて頂き、上手く自己決定が出来ない方には職員が決めていきます。また、服が汚れた場合は交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや簡単な調理後片付け等を一緒に行っていますが、入居者様全員が行ってはいません。また、食事介助を重視するあまり、食事を楽しんで頂く為のコミュニケーションや摂取動作の確認が少ない場面もあります。今後は、全員が楽しむ事が出来る様に支援が必要と思います。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分が確保出来るように各チェックを行いながら、一人一人の状態等に応じて声を掛けを行い、摂取動作や嚥下機能によって食事形態を変更したり代替えを行って支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い一人一人に応じて補助道具を変え対応を行っています。また、出来るだけ入居者様に出来る事は行って頂ける様にしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつ使用量を軽減する為に、排泄チェック表で確認を行い、出来る限りトイレにて排泄をして頂いています。トイレでの排泄が困難な方もおられます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい利用者様には、下剤を使用し排泄出来る様に支援しています。日頃の対応として、乳製品などを毎日摂取して頂いていますが、予防の為の運動等が不足しており、今後は入居者様に負担が掛からない様に増やしていく必要があると思います。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様には、職員の都合で日にち等が決まっていますが、その中で順番を考慮したりしています。入浴を拒否される方には、日にちを変えたり職員による声掛けを変えるなどの工夫をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や状態に応じて、安眠しやすい体勢になっていただいたり、時間の調整をしております。出来るだけ、日中の生活を工夫し落ち着いて安眠が出来る様な工夫の必要があると思います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様別に、内服薬の一覧表があり確認できるようになっています。担当者以外は把握できていない事が多く、また、変化の確認に努めていますが、変化の察知が遅れてしまう職員もいる為、服薬支援の大切さを再度学ぶ必要があると思います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の様子を確認し、一人一人に合ったレクリエーションや軽作業などを行っていますが、外へ行くなどの気分転換などが少なくなっている為、入居者様に楽しい日々が過ごせるような支援が必要と思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望によって買い物に行かれたり、ちょっとしたドライブや家族と外出される為の支援等は行っています。しかし、頻度が少なく一人一人の状況に応じて出かけられる様な日常的な支援が不足している為、頻度を増やす必要があると思います。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者様のお金は施設で管理しておりますが、数人の方はその他にお小遣いを持っておられ、買い物などに使用されています。職員が代行して買いに行く事の方が多いです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望で、御家族に電話される方や携帯電話を持っている方も居ます。ご自分で番号などが押せない場合は、職員の方で支援しております。また、毎日連絡をして下さる御家族もおられます。手紙などのやり取りは行っていなく、文字を書く事の大切さを再認識し、工夫していく必要があると思います。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花や季節に応じた飾り付けを、入居者様と一緒に作成し飾っています。季節が確認できるような取り組みを行っていますが、飾り付けの時期が少々遅くなってしまう事がある為、改善していく必要があると思います。また、湿度や温度の管理や光の調整などを行い、出来るだけ居心地の良い環境作りを行っていますが、工夫が不足している為、色々な事を取り入れていく必要があると思います。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファーや、食卓テーブルにて思い思いに過ごされる入居者様、各居室にてお一人でゆっくりとくつろがれる方もいます。また、喫煙室にて職員とゆっくり会話を楽しまれるなど、使用できる空間を工夫し場所を提供させて頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始の段階で、入居者様が今までの生活で使用していた物を持って来て頂き、ご自宅と同じ配置に近づける様に努力を行っています。その後入居者様や御家族と色々と話し合いを行い、居心地が良くて安全な居室作りを行える様に工夫しています。また、仏壇なども持ち込んで頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室を混乱してしまう入居者様の為に、表示等を付けさせて頂いています。また、タンス内に何が入っているのか明記し、出しやすい様に支援しています。一人一人の物に目立たない様に名前を付けさせて頂き、入居者様と一緒に仕分けが出来る様にしていきます。		